

平成29年度地方創生推進交付金事業評価

○ 目次

- (1) とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略
- (2) 賑わいコンパクトシティ形成事業
- (3) 女性・若者活躍促進事業
- (4) 四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略

シートの見方

地方創生推進交付金事業は、政策間連携等を図るため、様々な取組から成っていますが、ここでは、事業全体の概要を示しています。

基本目標は、「徳島市未来チャレンジ総合戦略」において設定している最も大きな目標の1つです。本事業のKPI(重要業績評価指標)の達成を通じて、基本目標の実現を図ろうとしています。

地方創生関係交付金事業に対して設定している指標です。同事業が、その推進により直接的に達成を目指している成果指標です。

事業の名称	賑わいコンパクトシティ形成事業								
事業の概要	<p>「都市ブランドの向上」、「集約型都市構造の形成」に取り組むとともに、「地域の特性を活かした魅力的なまちづくり」を一体となって実施することにより、「都市のにぎわい再生」と「コンパクトなまちづくり」を推進する。</p>		総合戦略基本目標	県外への大口流出に歯止め ⇒ 社会増の実現 (H31)	実績値 (H28)	+74人	計測中	増加	
事業期間	平成28年9月～平成31年3月		KPI(重要業績評価指標)	徳島市人口の県外との社会増減数		-635人	計測中	-686人	
事業費	38,726千円								
取組の名称と内容	(総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題			今後の方向性		効果	
都市ブランドの向上	<p>水都・とくしま魅力発信事業 (施策7-1 都市ブランドの創出)</p> <p>交流人口の増加による地域の活性化や、市民の愛着度の向上を目指して、阿波おどりや豊かな水辺環境、文化、歴史、特に世界から注目を集めている「阿波藍」など、本市の地域資源の魅力を市内外に発信する。</p>		<p>水都とくしまの魅力発信のための動画の制作や、WEBサイト、トクシィの活動を通じた情報発信を行い、本市の様々な地域資源の魅力を市内外に向けて発信し、本市の認知度向上を図った。</p>			継続	<p>引き続き、本市の魅力を市内外に発信するため、戦略的な情報発信を行っていく。次年度は、増加する外国人観光客に向けた取り組みを強化し、認知度の向上を図りたい。</p>		非常に効果的であった
集約型都市構造の形成	<p>立地適正化計画作成事業 (施策7-2 計画的な都市づくりの推進)</p> <p>居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能を誘導することにより、都市機能を集約し、コンパクトな都市を形成するために、立地適正化計画を策定する。</p>		<p>立地適正化計画の策定にあたり、必要な基礎情報の収集、都市構造の分析及び課題の抽出を行い、まちづくりの方針、誘導区域の設定方針等を検討した。</p>			継続	<p>平成30年度には、地域住民及び関係団体との意見交換を行いながら、具体的な誘導区域、誘導施設・施策を検討し、集約型都市構造の形成に向けた立地適正化計画の策定を目指す。</p>		相当程度効果があった

地方創生推進交付金事業の事業費総額です。交付金額は、事業費の概ね1/2です。

地方創生推進交付金事業は、政策間連携等を図るため、複数の取組から成っていますが、ここでは、それぞれの具体的な取組内容を示しています。また、各取組の成果・課題及び今後の方向性について、徳島市の担当課等が自己点検した結果も併せて示しています。

それぞれの取組の地方創生への効果について、徳島市の担当課等が目標の達成状況や成果・課題等を踏まえ、4段階で総合的に判断したものです。(非常に効果的であった/相当程度効果があった/効果があった/効果がなかった)

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 1

事業の名称	とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略					
事業の概要	徳島県等と連携して徳島市の「藍製品」をはじめ「木工・木製品」「食材・食品」等の地域産業の高付加価値化に向けた新商品の開発支援や域内消費の拡大、販路拡大に取り組む。	総合戦略基本目標	雇用創出数 5年間 (H27~H31) の累計で1,000人以上	実績値 (H28末)	実績値 (H29直近)	目標値 (H31末)
		KPI (重要業績評価指標)	地域資源活用高付加価値商品数 (累計)	422人	570人 (H29.12時点)	1,000人
			農商工連携により開発した商品数 (累計)	未実施	0商品 (H29.12時点)	30商品
			補助金等を利用して販路拡大に結び付いた事業者数 (年間)	0商品	5商品 (H29確定値)	5商品
事業期間	平成28年10月~平成33年3月		21事業者	19事業者 (H29.12時点)	30事業者	
事業費	44,506千円		徳島市産食材取扱い認定店舗数 (累計)	2店舗	7店舗 (見込)	20店舗
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果
地域産業の高付加価値化に向けた新商品の開発支援		<p>KPIについては、平成30年2月末を目処に、藍プロダクト開発講座受講修了者である本市中小企業者名(9事業者)が製品開発を進めていることから、目標値である5商品を達成できる見込みである。</p> <p>また、平成29年9月に展示会「rooms EXPERIENCE」に出展し、阿波しじら協同組合加盟事業者とロサンゼルスメンズブランドとのコラボレーションによる試作等を展示した。本市が民間雑誌の賞を受賞したほか、展示会をきっかけにコラボレーション先のブランドにおいて、阿波藍を活用した商品の検討が進められているほか、展示会を機に参加各事業者では商談が進んでいる。</p> <p>また、メディア・バイヤー招聘については、英テキスタイル専門雑誌とフランスのデザイナー兼バイヤーを招聘した。テキスタイル雑誌では平成30年3月に阿波藍を中心とした特集が組まれる予定となっている。また、フランスのデザイナー兼バイヤーは次年度の展示会に向け、製品の検討を進めている。</p>		発展	<p>地域資源について、歴史や文化的な背景、地域資源活用に取り組む事業者が有する特有の技術や新たな活用などについての情報発信等を行い、地域資源を活用した商品の増及び地域資源のブランド力の強化、知名度向上を目指す。</p>	非常に効果的であった
とくしま地域資源活用支援事業 (施策8-2 地域産業の振興)						
農商工連携等支援事業 (施策8-1 農林水産業の振興)		<p>食藍の活用方法を提案。店舗等での販売には至ってないが、イベントにてメニュー開発を実施した。</p>		継続	<p>今後は実際に販売可能な商品開発を念頭に、事業を実施する。</p>	非常に効果的であった
<p>藍をはじめとする地域資源活用による、中小企業等の高付加価値商品の開発等を支援するため、商品開発に関するセミナーの開催や補助制度の実施、ブランディングの支援や産地PR等を行う。</p>						
<p>地域資源を活用し、農商工連携及び6次産業化を推進するため、高収益作物を活用した商品開発を行うための支援等を行う。</p>						

<p>地域産業の首都圏・海外市場等の販路拡大支援</p>	<p>首都圏の加工食品のテストマーケティングには、想定していた募集数を上回る応募があり、消費者モニタリングを経て選考を行った結果、15品をテスト販売、10品程度をシェフ等への提案を行う予定である。参加事業者については委託事業者からのアドバイスを基に改良に取り組んでおり、選外となった事業者からも委託事業者からのアドバイスは好評であった。</p> <p>専門家の知見活用のため、販路コーディネータとの専門家マッチングを行ったが、応募が想定数を下回った。28年度、専門家への委託料補助がもっとも活用の多かった補助メニューであったこと等から考えて、専門家活用については二極化が進んでいることがわかった。今後は、未活用の事業者等への意識啓発等について行いたい。</p> <p>補助金の活用については、件数が減少した。補助上限の引き下げや利用の多かった専門家活用に対する補助をマッチング対象者のみに限定したこと等によるものと考えられる。</p>	<p>見直し</p>	<p>中小企業者の課題解決に資する事業内容とするため、補助内容等の見直しを図るとともに、引き続き、中小企業者が専門家の知見を効率的に取り入れ、活用する機会の創出に努める。</p> <p>また、首都圏での加工食品のテストマーケティング結果をもとに、加工食品の販路拡大に係る課題解決に資する事業を行う。</p>	<p>相当程度効果があった</p>
<p>中小企業販路拡大支援事業 (施策8-2 地域産業の振興)</p>	<p>中小企業の首都圏・海外への販路拡大に向けた取組を支援する補助制度を設けるとともに、テストマーケティングやセミナー等による情報提供等を行う。</p>			
<p>とくしま食材ブランド化推進事業 (施策8-1農林水産業の振興)</p>	<p>飲食店等食関連事業者への積極的なアプローチ等を強化することにより、取り扱い店舗数の増加が目標値よりも上回る予定。</p>	<p>発展</p>	<p>目標の達成に向けて、引き続き効果的な情報発信に取り組みつつ、地域食材等の購入や販売ニーズが高い消費者や飲食店等食関連事業者へのアプローチを図り、新たな顧客の獲得を図りたい。</p>	<p>非常に効果的であった</p>
<p>徳島市産農林水産物の価値や魅力を情報発信し、知名度や信頼性を高めてブランド化を推進するPR活動を行い、首都圏等大規模市場での販路拡大を図る。</p>				
<p>地域産業の域内消費の拡大に向けた情報発信等</p>	<p>今年度新たにスタンプラリーを実施したことにより、「とくしまIPPIN店」の認知度向上が図られるとともに、各店舗への来客者数、売上金額、食材フェア来場者数、食材フェア売上等が増加するなどの効果が得られ、地産地消の一層の推進につながった。</p> <p>しかし、実施期間が短かったことやスタンプカードのマス数が多すぎたなどの問題点が判明しており、今後はこれらの問題点を改善していく必要がある。</p>	<p>発展</p>	<p>本事業は、地産地消の推進に効果的な事業であると考えているため、問題点を改善することにより、発展させていきたい。</p>	<p>相当程度効果があった</p>
<p>地産地消推進事業 (施策8-1農林水産業の振興)</p>	<p>地元産農林水産物の良さや魅力をPRし、地産地消を推進するとともに、地元産食材の利用拡大を図る。</p>			

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 2

事業の名称	賑わいコンパクトシティ形成事業					
事業の概要	<p>「都市ブランドの向上」、「集約型都市構造の形成」に取り組むとともに、「地域の特性を活かした魅力的なまちづくり」を一体となって実施することにより、「都市のにぎわい再生」と「コンパクトなまちづくり」を推進する。</p>			実績値 (H28末)	実績値 (H29)	目標値
		総合戦略基本目標	県外への人口流出に歯止め ⇒ 社会増の実現 (H31)	+74人	計測中	増加(H31末)
事業期間	平成28年9月～平成31年3月	KPI(重要業績評価指標)	徳島市人口の県外との社会増減数	-635人	計測中	-686人(H30末)
事業費	38,726千円					
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果
<p>都市ブランドの向上</p> <p>水都・とくしま魅力発信事業 (施策7-1 都市ブランドの創出)</p> <p>交流人口の増加による地域の活性化や、市民の愛着度の向上を目指して、阿波おどりや豊かな水辺環境、文化、歴史、特に世界から注目を集めている「阿波藍」など、本市の地域資源の魅力を市内外に発信する。</p>		<p>水都とくしまの魅力発信のための動画の制作や、WEBサイト、トクシィの活動を通じた情報発信を行い、本市の様々な地域資源の魅力を市内外に向けて発信し、本市の認知度向上を図った。</p>		継続	引き続き、本市の魅力を市内外に発信するため、戦略的な情報発信を行っていく。次年度は、増加する外国人観光客に向けた取り組みを強化し、認知度の向上を図りたい。	非常に効果的であった
<p>集約型都市構造の形成</p> <p>立地適正化計画作成事業 (施策7-2 計画的な都市づくりの推進)</p> <p>居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能を誘導することにより、都市機能を集約し、コンパクトな都市を形成するために、立地適正化計画を策定する。</p>		<p>立地適正化計画の策定にあたり、必要な基礎情報の収集、都市構造の分析及び課題の抽出を行い、まちづくりの方針、誘導区域の設定方針等を検討した。</p>		継続	平成30年度には、地域住民及び関係団体との意見交換を行いながら、具体的な誘導区域、誘導施設・施策を検討し、集約型都市構造の形成に向けた立地適正化計画の策定を目指す。	相当程度効果があった

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 3

事業の名称	女性・若者活躍促進事業					
事業の概要	女性や若者を中心とした雇用の創出に向けて、女性や若者に力点を置いた就業・創業の支援をするために、女性や若者などの創業促進、若年者の正規雇用化促進、人材育成に取り組むことで、女性や若者の力を活かすことのできる仕組みを構築し、誰もが活躍できる活力ある徳島市の実現を図る。	総合戦略基本目標	雇用創出数 5年間 (H27~H31) の累計で1,000人以上	実績値 (H28末)	実績値 (H29直近)	目標値
		KPI (重要業績評価指標)	創業件数 (徳島市事業の活用者対象) (累計)	2件	16件 (H29.12時点)	18件(H30末)
事業期間	平成28年9月~平成31年3月	正規雇用化者数 (徳島市事業の活用者対象) (累計)	1人	12人 (H29.12時点)	45人(H30末)	
事業費	8,697千円	ワークライフバランス推進に取り組む企業数 (累計)	未実施	8社 (H29.12時点)	20社(H30末)	
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果
女性・若者等の就業・創業促進		平成28年10月から事業を実施したが、事業の広報が創業者や創業支援事業者に浸透したため、平成29年度の女性・若者等の件数が14件と増加している。		継続	本事業の広報の浸透により、女性・若者等の創業者が増加しているため、さらに女性・若者の創業者支援に取り組んでいく。	非常に効果的であった
創業促進事業 (施策8-2 地域産業の振興) 創業支援事業者 (商工団体、金融機関等) と連携し、創業支援相談会、出張講座、セミナー等を実施するとともに、創業予定者、創業後間もない事業者等を対象に、創業に要する経費、または、事業の発展に要する経費の一部を補助する。						
若年非正規労働者正規化促進事業 (施策8-4 働く環境づくりの推進) 国のキャリアアップ助成金を活用した事業主に対し奨励金を上乗せ支給し、雇用の安定、中小企業の人材確保を支援する。また、徳島公共職業安定所と連携した就職面接会により、正規化促進に取り組む。				見直し	年度の途中で予算額に達したため、年間を通して事業を実施できるよう、募集期間を設ける等の見直しを図る。	非常に効果的であった
ワークライフバランス推進事業 (施策8-4 働く環境づくりの推進) 労働力不足が顕在化している中で、労働者の生産性向上が求められ、女性、若者、高齢者、障害者等のワークライフバランスの向上 (仕事と生活の調和) を図ることを支援し、優秀な人材の確保、生産性の向上に繋げる。		市の広報だけでなく、関係団体に、事業の周知について協力を依頼し、現在8社が申請している。		継続	企業のニーズが高い効果的な事業であると考えているため、継続して実施していく。	非常に効果的であった

若者の人材育成				
市高生次世代プロデュース事業 (施策1-2 学校教育の充実)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携教育の推進 地域の魅力を再発見するため各分野の外部講師を招聘し、総合的学習の教育講演等を実施した。 また、市高フォーラムとして、デジタルコンテンツを活用し、あらたなメディアを創出している徳島出身の藤田恭嗣さんを招き、地域とメディア、さらには教育をどうつないでいくかについて、生徒と討論、情報や意見交換をすることができ、次世代の徳島市を担う人材の育成が図れた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携教育の推進 本事業は、生徒の地域理解力・企画立案力・協働実践力を養成できる効果的な事業と考えている。このため、歴史・教育・地域社会・技・自然・食と健康の各分野で徳島市の魅力を再発見する、総合的学習の教育講演等を増やしていきたいと考えている。 	
市高レインボウプラン（IRP）の再編と拡大…地域理解力・企画立案力・協働実践力を養成する。 高大連携（京大・徳大を中心に）に基づく教育を展開し、地域創生、国際理解への取組を通じた課題解決能力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連携教育の推進 H29.5月に台湾國立潮州高級中學訪日教育旅行団の訪問があり、姉妹校締結調印を行い、東アジアの歴史研究などの交流を実施した。 また、徳島大学異文化交流事業に参加し、徳島大学への留学生とともに地域をフィールドワークし、地域行事に参加するなど、英語をツールとしたグローバル人材の育成が図れた。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連携教育の推進 徳島大学異文化交流事業への継続参加、 H30.10月来校予定のドイツヘルベルトギムナジウム高生との交流や台湾との東アジアの歴史研究などの交流により生徒の国際理解度の向上とともに、英語のみならず、多言語に対応できるグローバル人材の育成を図ってっていくもの。 	非常に効果的であった

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 4

事業の名称	四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略					
事業の概要	徳島市が県等と一層連携し、国内外からの観光客拡大に向けた取組を推進するとともに、将来的に徳島東部地域DMOを設立し、広域かつ戦略的に観光振興等に取り組むことで、交流人口の増加や圏域の活性化を図る。	総合戦略基本目標	県外への人口流出に歯止め ⇒ 社会増の実現（H31）	実績値（H28末）	実績値（H29直近）	目標値（H31末）
				+74人	計測中	増加
事業期間	平成29年4月～平成33年3月	KPI（重要業績評価指標）	観光客入込数	215万人	183.6万人（H29.12時点）	230万人
事業費	7,500千円					
取組の名称と内容（総合ビジョンでの位置づけ）		取組の成果・課題		今後の方向性		効果
外国人観光客倍増等に向けた誘客促進事業		徳島市阿波おどりの開催にあわせて8月11日から16日までの間実施。自宅提供者数31件、延べ宿泊者数273人の実績があり、宿泊施設不足対策と観光消費や阿波おどり観覧者の増加面で一定の効果があった。		見直し	平成30年度に施行される住宅宿泊事業法による民泊の普及を促進し、徳島市阿波おどり期間中の宿泊施設不足の解消等に引き続き努めたい。	非常に効果的であった
イベント民泊実施事業（施策7-3 観光・交流の促進） 阿波おどり期間中の宿泊施設が不足する時期に、イベント民泊を実施し、観光客の受入環境の整備を図る。 【イベント民泊】 イベント開催時に自治体の要請等により自宅を旅行者に提供すること。						
インバウンド対応事業（施策7-3 観光・交流の促進）		本市に入港した2隻の大型客船に対して埠頭での歓迎セレモニーや阿波おどり演舞などを行い、乗船客に対するおもてなしと本市の観光の魅力発信を行った。		継続	今後も引き続き、本市に入港する大型客船への阿波おどり演舞等によるおもてなしを行う。	非常に効果的であった
着地型・体験型旅行商品開発促進事業		徳島東部地域DMOの設立に向け、観光実態調査、事業計画の策定、組織設計等を実施。		継続	平成30年4月に徳島東部地域DMOを設立し、広域かつ戦略的に観光振興等に取り組み、交流人口の増加や圏域の活性化を図る。	非常に効果的であった
DMO設立事業（施策7-3 観光・交流の促進） 地域と協働しながら観光地づくりなどの観光振興全般にわたる業務を担うDMOを官民一体となって設立する。 【DMO】 観光地域づくりの舵取り役を担う法人。						